

## 2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	准教授	橋村 晴美
最終学歴	学 位	専門分野
名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科修了	修士 (保育学)	カリキュラムマネジメント、 幼児指導法 (領域「言葉」)

### I 教育活動

#### ○目標・計画

(目標)

「教えられる学習者」から、「自ら探求する学習者」へと転換させることを目標とする。

(計画)

さまざまな教科や実習で得たものを総合し、自分自身の子ども観や保育観を形成させていく。

そこで、視聴覚教材の活用または事例検討等を通して、多面的に保育を捉える視座を養い、「知識」が「知恵」に変容していくプロセスを体験させていく。

#### ○担当科目 (前期・後期)

(前期)

保育実習事前指導 I A、保育原理、専門演習 I、専門演習 III

(後期)

保育内容 (言葉)、保育実習指導 I A、保育実習 II 事前事後指導、専門演習 II、専門演習 IV、  
保育実習 I A、保育実習 II、卒業研究

#### ○教育方法の実践

集団討議やディベートを導入して、既存の知識に深まりを持たせていくよう努めた。

#### ○作成した教科書・教材

特になし

#### ○自己評価

学生の学修意欲を大切に授業外での個別対応にも時間を割いた結果、学生と密な関係が形成され、学修意欲を高める (つなげる) ことができた。

### II 研究活動

#### ○研究課題

1. 教育課程 (全体的な保育) と指導計画の関連
2. 領域「言葉」を意識した保育実践の実際

#### ○目標・計画

(目標)

幼児教育における教育とはなにか

(計画)

1. 某自治体における教育課程、指導計画 (長期指導計画・短期指導計画) のデータ収集を行う。
2. 公開保育指導案の分析ならびに保育実践との関連について分析を行う。

#### ○2012 年 4 月から 2020 年 3 月の研究業績 (特許等を含む)

(著書)

- ・井上孝之、小原敏郎、三浦主博、飯島典子、岩崎基次、請川滋大、小野瀬剛志、塩谷香、高橋貴志、恒川丹、西垣吉之、西本佳子、橋村晴美、堀田浩之、松本純子、宮本和行『つながる保育原』みらい、2018年、78-90頁
- ・成田朋子、木元有香、鈴木恒一、岸本美紀、山野栄子、橋村晴美『新・保育実践を支える人間関係』福村出版、2018年、156-203頁
- ・那須川知子、大方美香、鈴木裕子、二見素雅子、大庭三枝、富田久枝、田村佳世、西垣吉之、橋村晴美、木曾陽子『MINERVA はじめて学ぶ保育⑤保育内容総論(乳幼児の生活文化)』、ミネルヴァ書房、2018年、175-187頁
- ・谷田貝公昭、大沢裕、杉山倫也、斎藤真、富山大士、小原倫子、橋村晴美、松田久美、治田哲之、細野美幸、稲葉健、大槻千秋、野澤純子、塚越康子、山田徹志、野末晃秀『幼児理解 新版』一藝社、2018年、68-77頁
- ・谷田貝公昭、大沢裕、杉山倫也、斎藤真、富山大士、佐藤秋子、小原倫子、橋村晴美、松田久美、治田哲之、大須賀隆子、稲葉健、大槻千秋、野澤純子、塚越康子、野末晃秀『幼児理解』一藝社、2017年、81-90頁
- ・伊藤健次、和泉美智恵、伊藤玲、小川英彦、荻原はるみ、小野里美帆、川上輝昭、小崎恭弘、酒井教子、園山繁樹、楯誠、一色澄、和泉美智恵、今泉依子、小野里美帆、小原榮子、塚本恵信、丹羽健太郎、橋村晴美、松下浩之、三島美砂、役田享、安原千香子、吉住敦子、吉弘淳一『新・障害のある子どもの保育 第3版』みらい、2016年、240-254頁
- ・小林重雄、伊藤健次、野呂文行、熊谷恵子、園山繁樹、平雅夫、宮本信也、青山真二、浅香由起江、雨貝太朗、阿部博志、池田奈津世、石井亜希子、伊藤玲、今本繁、内山千鶴子、大久保賢一、大隈紘子、緒方明子、小澤直美、小野學、衣笠広美、金珍熙、木村拓磨、倉光晃子、小島美枝子、今野義孝、佐竹真次、佐藤大策、塩原彩子、宗和敏明、田崎卓見、高橋甲介、高浜哲郎、多田裕夫、楯誠、谷晋二、塚本恵信、徳永一富、中島正典、新川明子、新川泰弘、野口幸広、橋村晴美、東原文子、肥後祥治、藤村義博、裴虹、松岡勝彦、松下浩之、三浦剛、水野浩、村本浄司、安川直史、山岡信夫、山口日奈子、山口昌保、山崎友紀、山中克夫、若松千春、渡辺匡隆『自閉症教育基本用語事典』学苑社、2012年、247頁

(学術論文)

- ・八桁健、橋村晴美『領域「表現」に関する素材遊びについての応用』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(4)、2018年、115-123頁
- ・橋村晴美『領域「言葉」における言葉の感覚が養われる教育方法についての一考察—学生の選書から見えてきたもの—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(3)、2018年、19-28頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、西垣直子『環境に関わって生み出される遊びにおける非認知能力の評価に関する研究』、中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(3)、2018年、79-88頁
- ・西垣直子、西垣吉之、橋村晴美『幼児の発達に応じた身体表現活動を可能にする保育者への支援に関する研究—領域「健康」における子どもの育ちを読み取る視点を広げるために—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(3)、2018年、1-10頁
- ・明石英子、橋村晴美『保育者養成校に求められる「社会人基礎力」とは—学生の意識調査から見える実習指導の課題』幼年教育 WEB ジャーナル(1)、2018年、21-28頁
- ・西垣吉之、小木曾友則、橋村晴美、西垣直子『幼児の人間関係を育む教師の役割—幼児同士の関わりを表したエピソードの解釈から読み取ったことを中心に—』中部学院大学・中部学院大

学短期大学部教育実践研究(1)、2017年、45-54頁

- ・西垣吉之、西垣直子、橋村晴美『身体の動きを伴う幼児の活動の評価の諸相に関する研究—領域「健康」における子どもの育ちを読み取る視点を広げるために』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(1)、2017年、33-44頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、西垣直子『幼児期の遊びにおける学びに関する研究—幼児の知的発達に着目して—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(2)、2017年、1-15頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、平岡康代、西垣直子『幼児の実態を把握する保育者の視点についての分析—幼児の実態把握と環境の関連に着目して—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(2)、2017年、55-65頁
- ・橋村晴美、西垣吉之、西垣直子『幼稚園新規採用教諭の専門性の育ちと指導・助言の関連に関する研究』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(2)、2017年、35-44頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、西垣直子『子どもの心の動きから捉えた異年齢保育の意味に関する研究』成育支援研究(7)、2016年、62-70頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、西垣直子『保育において肯定的なまなごしを向けることの意味—保育者が受け入れがたい子どもの事例を通して—』障害支援研究(16)、2016年、34-42頁
- ・上田敏丈、平野仁美、羽根由美子、橋村晴美、松葉百香、二橋香代子、半澤幸恵、浦浜麗名『大学間授業研究の有効性に関する研究—保育者養成教員の指導方法の差異に着目して—』人間文化(26)、2016年、11-24頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、Dalrymple 規子、小木曾友則、西垣直子『言葉の発達を促す指導・援助に関する実践研究—言葉の発達に弱さを抱えるA男の保育記録の解釈を通して—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(1)、2016年、99-109頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、鈴木公二、西垣直子、Dalrymple 規子、岡田泰子、寺見陽子『個の適切な援助を促すための子どもの実態の読み取りの質に関する実践研究—個別支援計画に盛り込むべき内容への示唆—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(1)、2016年、37-47頁
- ・橋村晴美、浅野俊和、塚本恵信『「教育・保育課程論」の授業テキスト(市販教科書)における記述内容の比較分析—長期・短期指導計画の連動に関する説明部分を中心に—』中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究(1)、2016年、121-30頁
- ・橋村晴美、塚本恵信、西垣吉之『保育者養成の初年次教育における観察力の育成—初期段階における観察枠組みの獲得—』病児保育岐阜(6)、2015年、20-33頁
- ・西垣吉之、橋村晴美、西垣直子『子どもを主体とした保育実践法に関する事例研究』障害支援研究(16)、2015年、34-42頁
- ・西垣吉之、西垣直子、橋村晴美『保育行為の妥当性を判断するための手立てに関する研究—園で発達の課題を抱える子どもの生活の場を変えることに着目して—』障害支援研究(15)、2015年、30-34頁
- ・西垣吉之、岡田泰子、脇田和子、橋村晴美、西垣直子、Dalrymple 規子『5歳児期の音楽に関わる指導・援助の質に関する研究—音や音楽に関わる活動における規則性不規則性に着目して—』障害支援研究(15)、2014年、4-19頁
- ・橋村晴美、塚本恵信、伊藤健次『幼稚園教育実習における実習日誌の改訂—教育課程「ねらい」「内容」の理解と考察を促す様式』幼児教育研究紀要(26)、2014年、27-39頁
- ・橋村晴美、伊藤健次『絵本の「集団読み聞かせ」に関する教育心理学的考察：対話による相互作用の効果についての検討』幼児教育研究紀要(25)、2013年、27-45頁

(学会発表)

- ・ 橋村晴美、西垣直子『異年齢の子どもが関わることの意味に関する一考察—人間関係における「あこがれ」という言葉に着目して—』日本保育学会第70回大会、2017年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『保育における援助方法の理解を促す試み—保育者の援助とプロンプト—』日本保育学会第70回大会、2017年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『幼稚園教育実習事後指導における自己評価から見た学生の現状と課題—課題克服への具体的手立ての記述から—』日本教育心理学会第58回総会、2016年
- ・ 橋村晴美『保育実践場面における学生の省察の特質』一般社団法人保育教諭養成課程研究会第3回研究大会、2016年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『幼稚園教育実習の事後指導のあり方に関する一考察』日本保育学会第69回大会、2016年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『保育指導計画における記録の問題点—ねらい・反省・自己評価の対応—』日本保育学会第69回大会、2016年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『初年次における相互観察演習：保育観察力の育成に向けて』全国保育士養成協議会第54回研究大会、2015年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『保育指導計画の理解を促す授業実践の試み：保育内容「言葉」における実践演習』日本教育心理学会第57回総会、2015年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『保育における観察力（1）初年次教育における相互観察の実践』日本保育学会第68回大会、2015年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『保育における観察力（2）初年次教育における観察枠組みの育成』日本保育学会第68回大会、2015年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『絵本の集団読み聞かせにおける読後の対話活動：保育における言語力の育成』日本教育心理学会第56回総会、2014年
- ・ 羽根由美子、上田敏丈、平野仁美、橋村晴美『保育者養成校における授業カンファレンスに関する研究』全国保育士養成協議会第53回研究大会、2014年
- ・ 橋村晴美『指導計画の立案を促す実践演習：「ねらい」の理解』全国保育士養成協議会第53回研究大会、2014年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『言葉の伝え合いを促す保育実践法の検討（3）養成課程における技能の育成：授業の構成と展開』日本保育学会第67回大会、2014年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『言葉の伝え合いを促す保育実践法の検討（4）『言葉』『人間関係』における保育技能：「言語力」の育成』日本保育学会第67回大会、2014年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『絵本の集団読み聞かせにおける読後活動としての対話的相互作用』日本社会心理学会第54回大会、2013年
- ・ 橋村晴美『保育者養成における言語力育成の試み—領域「言葉」「人間関係」につなげる授業の構成を实践—』全国保育士養成協議会第52回研究大会、2013年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『言葉の伝え合いを促す保育実践法の検討（1）絵本の読み聞かせにおける保育者と幼児の対話：実験的検討』日本保育学会第66回大会、2013年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『言葉の伝え合いを促す保育実践法の検討（2）絵本の読み聞かせにおける保育者と幼児の対話：継続的実践の効果』日本保育学会第66回大会、2013年
- ・ 橋村晴美、塚本恵信『保育の質を探る試み（3）個人的規準と実践の質』日本保育学会第65回大会、2012年
- ・ 塚本恵信、橋村晴美『保育の質を探る試み（4）再構成への可能性』日本保育学会第65回大会、

2012年

(特許) 特になし

(その他) 特になし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

○所属学会

日本教育心理学会会員、絵本学会会員、日本保育学会会員、日本保育者養成教育学会会員  
一般社団法人保育教諭養成課程研究会会員

○自己評価

研究素材は収集できたものの、学務分掌に追われ、研究者本来の目的(論文としての活字化)が後付けになってしまった。

### III 大学運営

○目標・計画

(目標)

キャリア委員会ならびに地域創造研究委員会において、地域・学生の意識高揚に向けた計画・取組みを積極的に発信していく。

(計画)

地域との交流を深め、在校生の職業意識に対する高揚を図っていく。

○学内委員等

キャリア支援委員会委員、地域創造研究所運営委員会委員、幼小教職委員会委員、  
保育士養成課程委員会委員

○自己評価

従来の取り組みを俯瞰し、改善事項の提案ならびに改善に向けての取り組みを実施した結果、本学のコンセプトである「オンリーワンをひとりにひとつ」、学生が満足できる就労支援の路が開拓されつつあるように思われる。

### IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

行政機関、民間保育現場等と連携し、保育の資質向上に向けた助言を行う。

(計画)

依頼を受けた仕事においては、実務家経験のある学識者として参加し、理論と実践の融合を図る助言に努め、それらを可視化して残していく。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

- ・愛知県現任保育士研修運営協議会『中堅・前期保育者研修会』講師、2019年
- ・愛知県現任保育士研修運営協議会『保育士等キャリアアップ研修』講師、2019年
- ・全国保育士養成協議会『平成30年度全国保育士養成セミナー』話題提供者、2018年
- ・岐阜県保育研究協議会『岐阜県保育等キャリアアップ研修』講師、2018年
- ・中部学院大学『子ども未来セミナー』パネリスト、2018年

- ・岐阜県恵那市『公開保育指導ならびに研修会』講師、2017年～現在に至る
- ・岐阜県各務原市『公立保育士自主勉強会』講師、2017年～現在に至る
- ・岐阜県各務原市『公開保育指導ならびに研修会』講師、2015年～現在に至る
- ・岐阜県各務原市『子育て支援員』指導講師、2015年～現在に至る
- ・岐阜県瑞穂市『子育て支援員研修会』講師、2015年～現在に至る
- ・中部学院大学『子育て実践プログラム』講師、2014年～2018年

#### ○自己評価

開催研修において、具体的かつわかりやすい指導であると、指導内容について高評価を得ることができた。

#### V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

積極的に学会に参加し、研究活動の発表を行う。

#### VI 総括

学生の関心に寄り添い、講義内容を教育と研究の統合された場として実現していかなければならないところ、研究者としての活動が昨年同様疎かになってしまい、成果をあげることができなかった。4年生大学・2年生大学それぞれの目的をいま一度しっかり整理して、質の高い保育者養成を提供していけるよう、研究者としての時間も確保していきたい。

以 上